

馬主だより

第 90号

平成30年1月26日
発行 (一社)ばんえい競馬
馬主協会事務局

☆4月から地方競馬でも“ギャンブル依存症”対策始まる！！

▼新しい年の幕開けです。お正月5日連続開催の発売額は、過去4年間では最高額となる10億円の大台に乗りました。今年も幸先良い年初めとなり、このまま最後まで駆け抜けますよう ご祈念いたします。▼さて、皆様は「ギャンブル依存症」をご存知でしょうか。精神疾患のひとつに分類され、プロセス依存、行為依存とも呼ばれ、医学的にも判断基準が設けられるれっきとした病です。▼害が出てもやめられない。依存症の人は自らの行動がコントロールできず、依存し続けて、やがて社会的、経済的に破滅していきます。家族や周囲の人たちを巻き込んで、害を及ぼすというのが依存症の怖いところです。▼JRA日本中央競馬会はギャンブル依存症対策の一環として、家族からの申告に基づき、インターネットでの競馬の投票券発売を停止する制度を導入した。▼家族の申請(本人の同意がなくても)を受けて馬券のネット販売が停止されるのは、医師からギャンブル依存症と診断を受けた人や、経済力に見合わない高額な購入をしている人。本人と同居する親族が申請書類を提出し、JRAが対象者に該当すると判断した場合、会員登録によるネットでの馬券販売が停止される。▼地方競馬でも、本年4月から同様のサービス制限が開始されることとなっており、更に今秋からは、家族の申告で競馬場、場外発売所においても入場券売り場に本人の入場を制限する制限拡大も検討されている。

平成29年度 ばんえい競馬 発売成績 (累計)

開催124日間

帯広市ばんえい振興室資料提供
平成30年1月22日終了時

区 分	発 売 金 額							
	平成29年度			平成28年度		対 比		
	日数	発売額	予算額	日数	発売額	予算	前年	
帯広競馬場	124	1,080,725,200	1,078,925,900	124	1,100,761,600	100.17	98.18	
直営場外	旭川北彩都	124	503,421,000	506,738,000	124	603,782,000	99.35	83.38
	ミトスポット北見	124	370,197,400	368,608,400	124	284,649,800	100.43	130.05
	ハロンス岩見沢	124	197,081,200	197,837,700	124	184,655,500	99.62	106.73
	ハロンス釧路	124	81,001,500	80,656,500	124	78,484,500	100.43	103.21
	ハロンス名寄	124	87,572,200	88,535,200	124	114,984,600	98.91	76.16
	アプスポット網走	124	56,955,800	56,801,000	124	45,100,700	100.27	126.29
	琴似駅前	124	113,062,700	113,629,400	124	119,192,900	99.50	94.86
	イルムふかがわ	124	74,512,100	74,279,200	124	74,088,700	100.31	100.57
電話投票	オッズパーク	124	4,484,505,800	4,491,441,400	124	4,213,340,900	99.85	106.44
	OP(七重勝)	124	26,123,200	94,710,800	124	72,411,800	100.19	36.08
	OP(五重勝)	124	68,764,300		124	48,949,800		140.48
	競馬モール	124	4,563,214,100	4,584,605,900	124	3,724,853,400	99.53	122.51
	SPAT4	124	4,878,973,000	4,924,127,200	43	1,167,763,200	99.08	417.80
広域場間場外	—	1,236,843,400	1,239,448,400	—	1,132,839,300	99.79	109.18	
場外・電投計	—	16,742,227,700	16,821,419,100	—	11,865,097,100	99.53	141.10	
合 計		17,822,952,900	17,900,345,000		12,965,858,700	99.57	137.46	
1日平均	124	143,733,491	144,357,621	124	104,563,377	99.57	137.46	

平成29年度該当開催(ばんえい競馬第1回1日目～第22回3日目まで124日間)

平成28年度該当開催(ばんえい競馬第1回1日目～第22回2日目まで124日間)

会議等の様子

○ 平成 29 年度第 7 回執行役員会を開催！！

～ 各関係機関への要請、陳情案などを検討 ～

平成 29 年 12 月 23 日(祝土)当協会事務局会議室に於いて、平成 29 年度第 7 回執行役員会を開催しました。

役員会では、来年度以降の内国産農用種雄馬購買の斡旋に係る精液検査について、先般、独立行政法人家畜改良センター十勝牧場に伺い、要請活動を行った内容について報告。この件は、今後、中央(農林水産省生産局)に陳情も視野に入れながら、理事会の意向も踏まえて最終的に判断をすることとなりました。

また、平成 30 年度から、競走馬弔慰金給付額の引き上げを検討している中に於いて、帯広市へ新たな補助支援制度を構築されるよう陳情するため、「当協会競走馬弔慰金に関する陳情書(最終案)」について協議しました。

その他、診療業務サポート事業の移行手続きに係る事務処理やスケジュール等、また、次年度ばんえい競馬開催に係り帯広市へ陳情するため、その骨子について協議検討しました。

【第 7 回執行役員会議事】

- (1) 内国産農用種雄馬購買の斡旋に係る精液検査の要請について
- (2) 当協会競走馬弔慰金に関する陳情書(案)
- (3) 十勝ばんえいクリニック譲渡物件及び事務処理等の移行手続き
- (4) 次年度開催に係る陳情骨子について
- (5) その他
 - ① 新春初夢抽選会の中止について
 - ② 共済事業弔慰金の給付に係る補正予算措置の検討について
 - ③ 平成 29 年度第 5 回理事会及び陳情の日程調整

○ 帯広市へ“当協会競走馬弔慰金に関する陳情書”提出！！

～ 弔慰金給付額の引き上げに伴う補助金交付の支援を要請 ～

平成 29 年 12 月 28 日(木)帯広競馬場委員長室に於いて、帯広市ばんえい振興室の佐藤室長と面談。「当協会競走馬弔慰金に関する陳情書」を提出し、陳情の趣旨を説明しました。当協会会員の意向を踏まえた上で、競走馬弔慰金給付額の引き上げに伴う補助金交付について、支援要請をいたしました。

【陳情事項】

1. 競走馬弔慰金給付額の引き上げに伴う補助金交付について
平成 30 年度より、競走馬弔慰金の給付額の大幅な引き上げに伴い、当該事業の円滑な推進を図るため、新たな補助支援制度を構築されるよう強く要請するものであります。当年度の補助金陳情額は次により 1,300 万円程度の補助金交付について、ご高配を頂きたく切にお願い申し上げます。
※ 上記、陳情の内容については、回答と併せて後日お知らせ致します。

○ 平成 29 年度第 8 回執行役員会及び第 5 回理事会を開催！！

～ 補正予算(案) 陳情書(案) ブロック懇談会開催について審議 ～

平成 30 年 1 月 20 日(土)当協会事務局会議室に於いて、平成 29 年度第 8 回

執行役員会を開催しました。

役員会では、競走馬弔慰金給付額の査定について、今回、対象馬3頭を審議。結果、全て原案のとおり議決承認されました。その他、第5回理事会議案に関する打合せ、精液検査に協力を求める陳情書(案)について協議しました。

また、第5回理事会に於いては、報告事項の他、議案では、今年度、競走馬弔慰金対象事故馬の頭数が増え、馬弔慰金の予算額を大幅に超過する状況に陥った事から、今般、予算の補正措置について審議いたしました。その結果、馬弔慰金の当初予算額 8,500 千円に補正予算額として新たに 8,000 千円を計上。合わせて補正後の予算額を 16,500 千円にすることで承認されました。

協議案では、来年度のばんえい競馬に関する陳情の原案について。また、今年度ブロック懇談会の日程調整及び懇談事項などについてそれぞれ協議しました。

【第8回執行役員会議事】

- (1) 競走馬弔慰金の査定について
- (2) 平成29年度第5回理事会議案
- (3) 内国産農用種雄馬購買に係る精液検査に協力を求める陳情
- (4) その他 ① 第9回執行役員会日程調整について

【馬弔慰金支給対象馬】 3頭 2,450,000円

内 訳 (単位:円)

馬 名	年齢	馬 主	給付別	馬弔慰金
ゴールドニシキ	5	奥田 實	療養中	450,000
カツウンカイ	4	(株)大阪畜産	業務中	1,200,000
ヒカルジャイナー	10	葛西 一郎	業務中	800,000

【第5回理事会議事】

- | | | |
|-----|--------|---|
| 日程1 | 報告第1号 | 競走馬弔慰金の給付額決定について |
| | 報告第2号 | 正会員の入会申込みについて |
| | 報告第3号 | 十勝ばんえいクリニック譲渡物件及び事務処理等の移行手続き |
| 日程2 | 報告第4号 | 当協会競走馬弔慰金に関する陳情について |
| | 報告第5号 | 内国産農用種雄馬の斡旋に係る精液検査依頼について |
| | 報告第6号 | 平成29年度内国産農用種雄馬の購買決定について |
| 日程3 | 議案第1号 | 競走馬弔慰金の給付に伴う補正予算措置について |
| 日程4 | 協議案第1号 | 次年度ばんえい競馬に関する陳情、意見、提言等について |
| 日程5 | 協議案第2号 | 平成29年度ブロック懇談会の日程調整及び懇談事項 |
| 日程6 | その他 | ① 2018年新春初夢抽選会中止
② 役員選任規程及び理事の定数について |

【正会員新規入会者】

会員番号	入会者氏名	馬主登録番号	ブロック名
H29-9	矢藤 秀樹	北17-13	道東ブロック
H29-10	大河原 昭雄	北17-18	道東ブロック

○ “平成30年度ばんえい競馬開催へ陳情書”提出！！

～ 競走馬確保 関係者意識改革 きゅう務員不足解消求める ～

平成30年1月21日(日)帯広競馬場の開催執務委員長室に於いて、「平成30

年度帯広市ばんえい競馬に関する陳情書」を提出。昨今、堅調な売上げが続く中、安定的な運営基盤づくりには、競走馬の確保、きゅう舎関係者の意識改革、きゅう務員不足解消など、これらの課題に真摯に向き合い、好調な時だからこそ、足元をしっかり固めることが重要。そのためには、中長期的な展望に立ち、継続的かつ効果的な対策を講じるよう求めました。

〔平成 30 年度帯広市ばんえい競馬開催に関する陳情項目〕

【陳情、要望事項】

1. 報償費支給基準について
2. 優良 2 歳馬導入促進対策事業の運用基準改定について
3. きゅう務員不足解消への具体的対策について
4. 公正確保のための運営・管理

【意見、提言事項】

1. ハローがけや散水情報の公表
2. 表彰式のマスク着用

※ 上記、陳情の内容については、回答書と併せてお知らせ致します。

情報・ご案内

○ “藤野俊一騎手 通算3,000勝達成！！”

～ ばんえい史上4人目 現役では2人目 ～

藤野俊一騎手(57歳)は、2017年12月25日(月)第1競走でウノフクヒメ号に騎乗して優勝し、通算3,000勝を達成しました。3,000勝達成は、ばんえい史上4人目、現役では2人目となる。通算成績は、2万2915戦3000勝(12月15日第1R終了時点)、うち重賞は、ばんえい最高峰レースの「ばんえい記念」で現役騎手最多となる5勝を含み、50勝しています。おめでとうございます！！

藤野 俊一(ふじの しゅんいち)騎手プロフィール									
※2017年12月25日(月)第1R終了時点									
生年月日	1960年8月15日(57歳)								
出身地	北海道森町								
本年度成績	611戦 96勝								
通算成績	22,915戦 3,000勝(うち重賞 50勝)								
初騎乗	1986年5月4日(騎乗馬:メイショウブ号)								
初勝利	1986年5月5日(騎乗馬:オーウキリン号)								
主な重賞優勝	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%;">1999年 ばんえい記念</td> <td style="width: 50%;">2006年 ばんえい記念</td> </tr> <tr> <td>2000年 ばんえい記念</td> <td>2010年 ばんえい記念</td> </tr> <tr> <td>2001年 帯広記念</td> <td>2011年 帯広記念、イレネー記念</td> </tr> <tr> <td>2005年 帯広記念、ばんえい記念</td> <td>2017年 ばんえいグランプリ</td> </tr> </table>	1999年 ばんえい記念	2006年 ばんえい記念	2000年 ばんえい記念	2010年 ばんえい記念	2001年 帯広記念	2011年 帯広記念、イレネー記念	2005年 帯広記念、ばんえい記念	2017年 ばんえいグランプリ
1999年 ばんえい記念	2006年 ばんえい記念								
2000年 ばんえい記念	2010年 ばんえい記念								
2001年 帯広記念	2011年 帯広記念、イレネー記念								
2005年 帯広記念、ばんえい記念	2017年 ばんえいグランプリ								

○ お正月5日連続開催も好調 初の“10億円”の大台を突破！！

～ 「帯広記念」6,965万円 ばんえい史上1Rの発売最高額を記録 ～

今年度のお正月開催(1～5日)は、5日連続開催の過去4年間では最高額となる10億円の大台を突破しました。正月5日連続開催は、2014年度から続き、年度毎

の売上げは曜日の並びが異なるため単純比較できないが、14年度が5億8681万円。15年度が7億4642万1800円、16年度が8億6829万8300円と年々伸びて、今年度は10億4441万円300円となり、1日当たりの発売額では、初めて2日、4日、5日の計3日間にわたって2億円を超えました。

2日は、お正月を飾る伝統の重賞競走「第40回帯広記念」だけで6965万4900円を売り上げ、帯広市単独開催後、ばんえい史上初、1レースの発売最高額を記録しました。

○ 平成29年度日本馬事協会 内国産農用種雄馬の購買決定！！ ～ ホンベツイチバン号 ダイコクパワー号 スピードフジ号の3頭に～

平成30年1月10日(火)帯広競馬場に於いて、公益社団法人日本馬事協会が購買し生産地に貸付け配置される「平成29年度内国産農用種雄馬」の最終選考が行われ、購買馬が決定しました。

当日は、事前を選抜された3頭について最終検査を行ない、その後、当該馬の馬主と日本馬事協会が売買契約が締結されました。購買馬の配置先団体等については、次のとおりです。なお、購買馬の引渡しは、平成30年2月13日(火)帯広競馬場に於いて行われる予定です。

【平成29年度 公益社団法人日本馬事協会購買馬】

購買馬名	年	クラス (万円未満)	馬主	配置先団体
ホンベツイチバン	11	400	石岡 務	ホクレン農業協同組合連合会札幌支所
ダイコクパワー	8	300	小森 唯永	ホクレン農業協同組合連合会苫小牧支所
スピードフジ	9	240	菅野 二十世	釧路農業協同組合連合会

レース情報

○ 重賞競走の結果

月日	重賞名	馬名	馬主	調教師
12月24日	第46回 ばんえいダービー	メジロゴーリキ	広瀬 豪	岡田 定一
12月29日	第19回 ヤングチャンピオンシップ	オレワチャンピオン	(株)北西ファーム	中島 敏博
1月2日	第40回 帯広記念	コウシュハウンカイ	秋田 忍	松井 浩文
1月3日	第11回 天馬賞	マルミゴウカイ	宮本 康弘	槻館 重人
1月21日	第28回 ヒロインズカップ	キサラキク	青山 修	林 豊

優勝おめでとうございます！！

◆ 第46回ばんえいダービー（3歳オープン）

12月24日(日)は重賞・ばんえいダービー（3歳オープン）が行われ、単勝2番人気のメジロゴリーキが優勝。第46代ダービー馬の座に就きました。

ばんえいオークス制覇など、3連続連対中と充実一途のナカゼンガキタが1番人気。前走のB1戦を快勝したメジロゴリーキが続き、はまなす賞勝ちのミノルシャープが3番人気に推されました。ただ、どの馬にもチャンスがありそうなメンバー構成で、上位人気だけにとどまらない混戦が予想されました。

まだ3歳とはいえ、着実に経験を積んできた精鋭10頭。道中はほぼ横一線のまま進みます。中間点を過ぎてても大きな動きはなく、ナカゼンガキタ、メジロゴリーキを筆頭に、各馬が第2障害にたどり着きました。

じっくりためたのち、ナカゼンガキタとメジロゴリーキがほぼ同時に登坂を開始。スムーズに越えたのはメジロゴリーキで、ナカゼンガキタは天板に脚をかけたところでヒザ折りを喫したものの、すぐに立て直して2番手でクリア。そのすぐ後ろからカネサスペシャル、コウシュハサマ、シンエイポブと続き、マツカゼウンカイとミノルシャープも圏内で突破しました。

先頭に行くメジロゴリーキの脚いろは多少重く感じられましたが、追ってくる各馬も同様。1馬身ほどの差は終始変わらず、残り10メートル標識を通過します。ここから追走勢が苦しくなり、8番手で障害を越えたホクショウムゲンが猛追。一時は先頭を捕らえる勢いでしたが、残り5メートル付近で失速。その間にメジロゴリーキが逃げ、先頭で荷物を運び切りました。白熱した2着争いは、6番手で下りたマツカゼウンカイがマイペースで歩き続けて先着。9番手クリアのジェイワンが、わずか0秒1差の3着となりました。

勝ったメジロゴリーキはこれが重賞初制覇。ばんえい大賞典2着、ナナカマド賞3着の実績がありましたが、この大舞台できっちりと勝利をつかみ取りました。他の先行勢が苦しむなか、積極的に運んで勝ち切ったあたりは実力の証明。さらなる成長次第で、ばんえいを牽引する存在となりそうです。

2着のマツカゼウンカイは、いわゆるブービー人気。展開が味方した面も多少はありますが、それでもしぶとく歩き切った内容が良く、高重量戦でこそ真価を発揮しそうな印象を受けました。今後が楽しみな存在となりそうです。

ジェイワンは目をみはるような末脚を発揮したものの、3着まで。ただ、これまでの重賞で崩れず走れていることから、障害さえスムーズならタイトルに手が届く器。さらなるパワーアップに期待したいところです。

◆ 第19回ヤングチャンピオンシップ（2歳産駒特別選抜）

12月29日(金)は重賞・ヤングチャンピオンシップ（2歳、産地選抜）が行われ、北央産駒のオレワチャンピオンが優勝。ナナカマド賞2着の雪辱を果たし、手綱をとった鈴木恵介騎手もこのレース4連覇を達成しました。

ナナカマド賞を制したミスタカシマが不在となれば、デビューから【6・6・2・1】のオレワチャンピオンが有力。前走の北央産駒特別を制して勢いにも乗っており、単勝1.4倍の圧倒的な1番人気に支持されました。以下バンリュウブラックが4.9倍、アアモンドグンシンが9.1倍。今回ばかりはオレワチャンピオンの勝ち方が焦点といった戦前予想となりました。

馬場水分は1.5%でしたが、2歳戦らしく全馬が元氣よく飛び出し、第1障害を難なく突破。コウシュハギョイがやや遅れ気味も、他馬は横一線の状態で中間点を通過し、そのまま第2障害を迎えました。

初の600キロながら、オレワチャンピオンが真っ先に障害に挑みます。これを見てバンリュウブラック、ジェイコマンダー、キンツルモリウチ、アアモンドグンシンも登坂を開始します。しかし、オレワチャンピオンは手間取ることなく軽快に障害を突破。ジェイコマンダーとアアモンドグンシンも差なくクリアし、キンツルモリウチ、コウシュハレガシーも圏内で障害を下りていき

ました。

最後の平坦路を迎えてジェイコマンダーがオレワチャンピオンに肉薄。しかしオレワチャンピオンもこれを抜かせず、白熱した叩き合いを演じます。残り20メートル標識を過ぎても、残り10メートルを切っても、2頭のクビほどの差はそのまま。結局1秒7の差を保って、オレワチャンピオンが先頭で荷物を運び切りました。接戦となった3着争いは、障害5番手から伸びたコウシュハレガシーに軍配が上がりました。

終始ジェイコマンダーに追われる厳しい展開となったオレワチャンピオンでしたが、最後までその猛追をしのぎ切りました。積極的に運びながらの粘り腰だけに、その勝負根性は相当なもの。安定感のある障害とともに、今後も大きな武器となりそうです。2着のジェイコマンダーはナナカマド賞(3着)に続く好走。前3戦の案外な競馬からは一変し、復調気配がうかがえる好内容でした。今後も状態次第で、タイトルをうかがうことができるでしょう。

◆ 第40回帯広記念(4歳以上オープン)

1月2日(火)は新年恒例の大一番、重賞・帯広記念(4歳以上オープン)が行われ、単勝3番人気のコウシュハウンカイが優勝。ニュータカラコマと並んでの最重量920キロをものともせず、重賞7勝目を挙げました。

混戦が続くオープン戦線だけに、説得力のある“よりどころ”があるかどうかオッズに表れた印象。このレースを連覇中で、高重量戦で力を発揮しているオレノココロが1番人気。2016年のばんえい記念馬で、復調を示すフジダイビクトリーが続き、北見記念勝ちのコウシュハウンカイは堅実に走れるのが魅力で3番人気。軽い馬場なら障害巧者のニュータカラコマと、馬場水分2.7%のなかで、それぞれの強みがどう発揮されるか注目されました。

軽めの馬場とはいえ、900キロ前後の重量が積まれているだけに、各馬は慎重な脚どり。それぞれのペースで歩を進め、多少ばらけた展開で第2障害を迎えました。

真っ先に第2障害に挑んだのはトレジャーハンター。差なくサクラリュウが続き、フジダイビクトリー、コウシュハウンカイも早めの登坂。なかではサクラリュウが鋭いかかりを見せ、先頭で突破。コウシュハウンカイも圏内で続き、3番手クリアは仕掛けを遅らせていたニュータカラコマ。さらにフジダイビクトリーも3頭を追いかける形で最後の平坦路に向かいました。

残り30メートル付近で先頭に立ったのはコウシュハウンカイ。サクラリュウも懸命に食い下がりますが、その差はジワジワと広がりはじめます。こうなれば堅実に歩けるコウシュハウンカイの勝ちパターン。そのまま最後まで確かな脚どりを見せ、先頭で荷物を運び切りました。サクラリュウが4秒1差の2着で、さらに3秒2差の3着にフジダイビクトリー。1番人気のオレノココロは障害6番手から追い上げたものの、4着までとなりました。

コウシュハウンカイは昨年の北見記念勝ちに続く重賞7勝目。旭川記念を15、16年に連覇しており、四市冠競走は残すところ岩見沢記念のみとなりました。多少勝ちみに遅い面もありますが、どんな競馬、馬場にも対応できる点が強みで、高重量戦もこなせるオールラウンダー。今後も混戦に拍車がかかるようなときには要注目でしょう。惜しかったのはサクラリュウ。これまで重賞勝ちこそありませんが、下級条件から着実に力をつけ、昨年の岩見沢記念で2着。そして、BG1でも好勝負を演じられるほど力をつけてきました。高重量にも慣れてきた印象で、初タイトルも時間の問題。さらなる活躍が期待できそうです。

フジダイビクトリーは“完全復活”とはなりませんでしたが、レースぶりそのものは悪くなかった印象。もう少し力の要る馬場だったら違っただけで、今後の重賞戦線でも好勝負が期待できそうです。

◆ 第11回天馬賞(5歳オープン)

1月3日(水)は重賞・天馬賞(5歳オープン)が行われ、単勝1番人気のマルミゴウカイが優勝。重賞5勝目を挙げ、世代王者の地位を不動のものとししました。また、藤本匠騎手は前日の帯広記念に続き、2日続けての重賞制覇となりました。

ブルーオーシャンが出走を取り消して9頭立て。ばんえいダービーのほか、柏林賞、銀河賞と、世代限定重賞を数多く制してきたマルミゴウカイが圧倒的な1番人気に推されました。目下、連勝中のタカラシップがこれに続き、3番人気はA1戦で好勝負を演じているフウジンライデン。ばんえいダービー、柏林賞、銀河賞でマルミゴウカイの2着となっているホクショウディープまでが、単勝ひと桁台の人気となりました。馬場水分は2.7%でスタート。道中はタカラシップが積極的に運び、多少ばらけた展開。それぞれの思惑を胸に、中間点を通り過ぎます。その後も、けれん味のない逃げでタカラシップが馬群をリード。早々と第2障害下にたどり着き、仕掛けのタイミングを計りはじめました。

5、6頭が追いついたところで、タカラシップが満を持して登坂。ひと腰で障害を登り切り、ゆうゆうと最後の平坦路に向かいます。これを見て他馬も続々と障害に挑みはじめ、マルミゴウカイ、フウジンライデン、ホクショウディープ、プレゼントウエーがほぼ横一線でクリア。後続は障害に手間取り、その後はほぼ5頭による争いとなりました。

先頭で突破したタカラシップでしたが、前半のハイペースが響いたか、残り30メートル付近で脚いろが鈍りはじめます。代わってマルミゴウカイが先頭に立ち、ホクショウディープも2番手に浮上。ただ、タカラシップも極端に失速することなく、隣枠のホクショウディープに食い下がって3番手をキープし、残り10メートルを迎えます。しかし、先頭のマルミゴウカイの脚いろは衰えるどころか、より勢いを増した印象。そのままゴール線を先頭で突き抜け、世代トップの座を守り抜きました。ホクショウディープが2着で、懸命に食い下がったタカラシップが3着で入線。結果的に人気サイドでの決着となりました。

タカラシップの積極策こそあったものの、マルミゴウカイが危なげないレース運びで世代王者の地位を堅守しました。やはり定量戦なら力は一枚上で、落ち着き払ったレースぶりには風格すら感じられました。今後の重賞は年長馬が相手となりますが、通用の下地は十分。引き続き注目の存在です。

ホクショウディープは、今回もマルミゴウカイに屈して2着。レースぶりは悪くなかったですが、それだけに勝ち馬との力の差を見せつけられた印象です。ただ、まだ5歳だけに、いくらでも成長の余地は残っているはず。今後の逆転に期待したいと思います。

今回のレースで、もっとも見せ場を作ったのはタカラシップ。積極的に運びながら3着に粘った内容に、着実な成長がうかがえました。今後のさらなる成長、そして馬場や展開次第で、重賞制覇のチャンスもありそうです。

◆ 第28回ヒロインズカップ（4歳以上牝馬オープン）

1月21日(日)は重賞・ヒロインズカップ（4歳以上牝馬オープン）が行われ、単勝1番人気のキサラクキが優勝。トップハンデ790キロをものともせず、重賞5勝目を挙げました。

最重量を課せられたキサラクキでしたが、今シーズンも北見記念で3着に食い込むなど、牡馬相手に互角の立ち回りを披露。牝馬ナンバー1という評価が、そのまま単勝1.6倍というオッズに反映されました。昨年のこのレースの覇者で、前哨戦のレディースカップで2着に入ったアアモンドセブンが2番人気。昨年の2着馬セイコークインが差のない3番人気と、牝馬戦線で実績を残してきた各馬が上位人気に推されました。

馬場水分は1.4%と、乾いたなかでスタート。道中はキサラクキ、セイコークイン、ファイトガールあたりがペースを握りますが、力の要る馬場だけあって、ゆったりと歩を進めます。これにアアモンドセブン、フェアリードールも続き、5頭が並んだ状態で第2障害を迎えました。

最初に仕掛けたのはセイコークイン。天板近くまで駆け上がりますが、越えるには至らず脚を止めます。その間、じっくり脚をためたのがキサラクキで、満を持して動くとき抜群の登坂を見せ、ひと腰で障害を突破します。これに続いたのがフェアリードールとアアモンドセブンで、さらにコウシュハサマーとヒカルナナヒメも並んで先頭を追いかけます。

しかし、キサラクキの末脚は衰えるどころか、さらに勢いを増す一方。10メートル以上の

差をつけて独走すると、そのままゴールまで他馬を問題にせず、トップで荷物を運び切りました。4頭による2番手争いから抜け出したのはアアモンドセブンで、残り10メートル付近で差を広げにかかると、キサラククから11秒差でゴール。さらに6秒差の3着にはセイコークインが入りました。

トップハンデながら、女王の名にふさわしい圧倒的なレースを見せたキサラクク。強豪牝馬にもまれてきた実力をいかんなく発揮し、牝馬の頂点に君臨しました。重い馬場を考慮して仕掛けを遅らせた阿部武臣騎手の手綱さばきも特筆すべき点で、今後もこのコンビに注目です。

勝ち馬には突き放されたアアモンドセブンでしたが、他馬には決定的な差をつけて2着。特に残り20メートルを切ったからの末脚には見どころがあり、今後も牝馬同士なら好勝負が期待できそうです。

※レース情報の内容につきましては、ばんえい競馬情報局より抜粋しています。